

小学校

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

音	楽
---	---

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
中央	有馬小学校	與那城礼子
台東	松葉小学校	玉野麻衣
墨田	緑小学校	阿部直子
渋谷	本町東小学校	栖原太郎
杉並	永福小学校	片柳尚子
葛飾	高砂小学校	清岡朋子
武蔵野	第五小学校	丸森菜穂
町田	鶴川第一小学校	田中美由紀
小金井	南小学校	薄井直美
西東京	けやき小学校	片岡与志子

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター

指導主事 小宮 恭子

目 次

研究の概要

1	研究主題設定の理由	2
2	研究のねらい	3
3	研究の方法	3
4	研究の構想図	4

研究の内容

1	個に応じた指導と評価の工夫(「ミュージックカルテ」)	5
2	観点別学習状況の評価を基本とした指導と評価の工夫 (「学級別題材別評価シート」)	10
3	「音楽的なアプローチ」による指導と評価の工夫	13
4	実証授業について	15

	研究の成果と今後の課題	24
--	-------------	----

研究の概要

1 研究主題設定の理由

教育課程審議会の答申（「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」平成12年12月）の中で、これからの評価の基本的な考え方が示された。

主な内容は次のとおりである。

- (1) 学力とは、知識の量だけでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けること。
- (2) 観点別学習状況の評価を基本とした評価方法を発展させ、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、児童一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを評価するための、個人内評価を工夫すること。
- (3) 評価方法の工夫改善については、総括的な評価とともに、分析的、記述的な評価を工夫し、学習や指導の改善に役立たせ、学習後に限らず、学習前や学習中での評価場面を工夫すること。

音楽科においては、以上のことを踏まえ、「指導と評価」について改善に向け努めているが、基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける指導と評価の効果的な方法は見いだせていない現状がある。本研究では音楽科における基礎的・基本的な内容である音楽的な資質や能力を、表現と鑑賞の活動や生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる音楽学習にかかわる児童の資質や能力ととらえた。そこで、音楽科において一人一人の児童に音楽的な資質や能力がどのように身に付いたのかを総括的にとらえ、そのことを分析し、学習前や学習中、学習後での具体的な指導と評価についての効果的な方法を見いだしていきたいと考え、研究主題を「基礎的・基本的な資質や能力の確実な定着を図るための個に応じた指導と評価の工夫」と設定し、次のように個に応じた指導と評価の工夫を行っていくこととした。

- (1) 個に応じた指導と評価(個人内評価)の工夫
- (2) 観点別学習状況の評価を基本とした指導と評価の工夫
- (3) 生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てるための指導と評価の工夫

また、本研究では、目指す児童像を次のようにとらえた。

自分の思いや願いを表現しようとする児童

身に付けた音楽的な資質や能力を主体的に生かそうとする児童

音楽を楽しみ、生涯にわたって音楽にかかわろうとする児童

このように、教師自らが指導と評価の改善を図ることにより、一人一人の児童が生涯にわたって音楽を愛好し、豊かに音楽を感受し表現する上で必要となる音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けることを本研究では目指していく。

2 研究のねらい

研究主題に迫るために、音楽科において、一人一人の児童が表現と鑑賞の活動や生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるために、次の3つの視点から研究を進めていくこととした。

(1) 個に応じた指導と評価の工夫(「ミュージックカルテ」)

題材や時間ごとにおける個に応じた指導と評価の工夫として、「ミュージックカルテ」を作成した。本研究において、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるために、第一は、児童の実態把握及び教師の働きかけ、支援の様子など、学習前や学習中、学習後での具体的な指導と評価について分析することから始めた。対象の観察児童は各学年10名、一人の研究員が約50名の児童について継続的、系統的にとらえた。第二は、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を育てていきたい力として児童の実態をとらえて明確にした。第三は、4観点(「関心・意欲・態度」「音楽的感受や表現の工夫」「表現の技能」「鑑賞の能力」)に絞って指導と評価の観点を設定した。第四は、毎時間、観点に沿って指導したこと、指導できなかったこと、指導によって変容した姿、変容しなかったこと、次時の課題や方法など全てを記録していき、毎時間の指導と評価に生かすとともに個人内評価として記録を蓄積していった。

(2) 観点別学習状況の評価を基本とした指導と評価の工夫(「学級別題材別評価シート」)

学習前や学習中、学習後での具体的な指導と評価についての効果的な方法として、観点別学習状況の評価を基本とした評価方法を発展させることが必要であると考え、「学級別題材別評価シート」を作成した。これは、年間指導計画における観点別評価規準を基に、毎時間ごとの具体的な評価規準、評価方法、評価場面を明確にし、毎時間の授業時間内に必ず一人一人の児童全員に評価を行い、次の時間の学習や題材での指導方法の改善につなげていった。

(3) 「音楽的なアプローチ」による指導と評価の工夫

児童が、表現と鑑賞の活動や生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるためには、技能の習得だけでなく、生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てるための指導と評価の工夫が必要である。そこで、児童自らが音楽を主体的に感じ取り表現していく活動を意図的に設定するため、「音楽的なアプローチ」を教師の支援ととらえ、毎時間、指導と評価について工夫することとした。

3 研究の方法

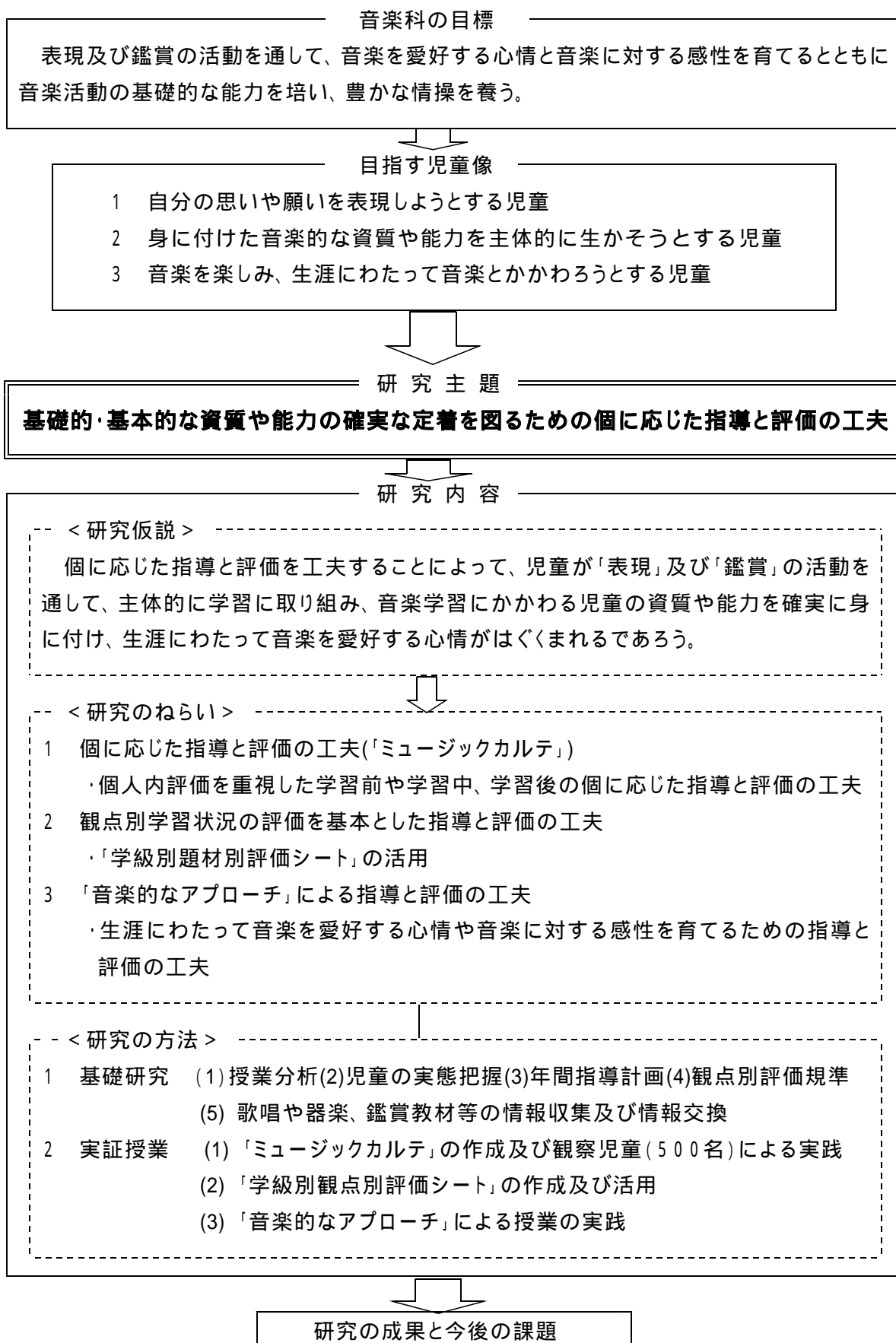
(1) 基礎研究

授業分析 児童の実態把握 年間指導計画 観点別評価規準
歌唱や器楽、鑑賞教材の情報収集及び情報交換

(2) 実証授業

「ミュージックカルテ」の作成及び観察児童による実践 「学級別題材別評価シート」の作成及び活用 「音楽的なアプローチ」による実践

4 研究の構想図



研究の内容

1 個に応じた指導と評価の工夫(「ミュージックカルテ」)

(1) 「ミュージックカルテ」の活用について

本研究は、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるために、個人内評価を重視した学習前や学習中、学習後の指導と評価を行うことが必要であると考え、「ミュージックカルテ」を活用した個人内評価の実践を試みた。

「ミュージックカルテ」とは、児童一人一人に対して音楽の授業において、児童のよいところ、伸ばしていきたいところなど児童に関する音楽的な評価や指導への変容など、事実を随時書き足し、指導の改善に向けて児童の評価を記録できるカードのことである。音楽活動にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるためには、教師が児童一人一人に応じた的確な指導を行う必要がある。様々な指導と評価を積み重ねることによって、児童のよさを客観的にとらえ、前時と本時の児童の変容を比べて分析し、個に応じた新たな指導法を見いだすことができると考え、模索し、追究することとした。このカルテの活用は、本来、全員の児童を対象に実施することが望ましいが、本研究では、個人内評価を重視した学習前や学習中、学習後の指導と評価を行うことをねらいとし、段階的に分析するため第1学年～第6学年の全学年、合計500名の児童を観察の対象として研究を進めた。

「ミュージックカルテ」の様式や内容の項目については、各学校の実態に即して児童一人一人に効果的な指導と評価が実現できるよう工夫し、10種類のカルテを作成した。作成するにあたって共通理解した内容は以下のとおりである。

学習前	学習中	学習後
ア 観察児童の音楽的な資質や能力の習得状況や課題の把握	ア 児童一人一人のよさを見だし、伸ばす指導と評価 イ 児童自ら主体的に音楽と	ア 指導の課題および成果の把握 イ 次時の改善に向けた児童の反応の想定及び具体的な指導と評価方法の工夫
イ 音楽活動を通して、身に付けたい資質や能力	かかわる音楽活動の実践	

「ミュージックカルテ」は、毎時間の授業の様子及び指導と評価についてその日のうちに必ず記録して、継続していき記録を蓄積した。具体的には、どのような指導と評価をしたのか、児童にどのような変容が見られたのか、また、変容が見られなかった場合は、何が原因なのかについて学習前や学習中、学習後の指導と評価を、次項の実践例で示すように、分析してカルテに記録した。そのカルテをもとに、変容が見られた場合は継続して指導し、変容が見られなかった場合には、その児童にとって最善の手だてを見付け出すよう努力した。次の表のとおり、実践して活用した。

「ミュージックカルテ」を活用した主な指導と評価	
・ 表現や鑑賞に関する指導と評価	・ 児童の実態に応じた編曲による指導と評価
・ ステップを細分化した指導と評価	・ 学習形態の工夫による指導と評価
・ 言葉による指導と評価	・ オリジナル教材による指導と評価 等

(2) 「ミュージックカルテ」を活用した実践

【実践例 低学年（第2学年）】

1 学習前（観察児童の音楽的な資質や能力の習得状況と課題の把握）

(1) 観察児童について

まじめに取り組んでいるが表情が硬いので、さらに豊かな表現ができるよう、音域を広げて歌うことや友達の歌や教師の範奏に関心をもって聴くことができるようにする。

(2) 育てたい力（評価規準の4観点より）

友達と合わせることの楽しさを感じて、自信をもって表現する。正しい音程で歌うことができるようにする。音楽を楽しく聴くことができる態度や習慣を育てる。

2 学習中及び学習後（児童のよさを見だし、次時の改善に向けた指導と評価の手だて）

< 5月19日 >

一斉に歌っている中で、少しでも良い表情が見られると「今日はとてもいい顔をしているね」と褒め、自信をもたせるようにした。

褒められるとうれしそうに歌っているが、隣で聴くと音程が不安定なので、さらに継続して指導する。

< 6月2日 >

「かえるの合唱」を全員で歌ってからグループごとに歌ってみた。友達の演奏を聴くことができるように声をかけた。

全員で歌っているときは楽しそうに歌っているが、グループごとに歌うと自信がないのか声も小さくほとんど歌わなかったので、自信がもてる言葉かけをしていく。

< 7月3日 >

「今月の歌」を全員で歌う。自動伴奏にして、教師が隣にいて一緒に歌った。一緒に歌うと音程も正しく歌えるようになってきたが、教師が歌うことをやめると、声が小さくなる。教師の歌声を聴いて音程を正しく歌えるようにさらに指導していく。

< 9月10日 >

「にわとりポルカ」を全員で歌ってから、グループごとにリレー唱をしていた。1学期に比べると、簡単な曲であれば音程が取れるようになってきた。グループごとに歌うときも友達に合わせて歌えるようになってきた。

< 9月17日 >

希望する児童が前に出て歌ったのをきっかけに、手を挙げるように声かけをした。以前なら自分から積極的に手を挙げることはなかったが、今日は初めて手を挙げて皆の前で歌った。そのことを認め、さらに意欲的になるような言葉かけをした。

< 10月8日 >

今日も前に出て歌うとき手を挙げて歌った。担任にも様子を報告し褒めてもらった。まだ、音程は安定しないが、歌うときの表情がとても柔らかくなってきた。

【実践例 中学年（第4学年）】

1 学習前（観察児童の音楽的な資質や能力の習得状況と課題の把握）

(1) 観察児童について

教師や友達の話を書くことが苦手であり、授業の流れを把握することに時間がかかる。歌うことは得意であるが、リコーダーは個人指導が必要である。

(2) 育てたい力（評価規準の4観点より）

意欲的に音楽活動にかかわり、友達と合わせることができるようになる。リコーダーの基本的な奏法が身に付くようになる。

2 学習中及び学習後（児童のよさを見だし、次時の改善に向けた指導と評価の手立て）

< 5月20日 >

「パフ」のリコーダーを教師と一緒に練習をする。

教師がついていれば少しはやるが、離れると練習をやめて立ち歩いてしまう。

< 6月3日 >

グループに分かれて希望の楽器を選択した。分かりやすいパート譜を作り個人指導をした。1フレーズできるごとに褒めていった。

担当の楽器（鉄琴）の練習はよくやっているが、グループで合わせるとうまくいかず、他のグループの練習場所に行ってしまう。友達と合わせられるように指導していく。

< 6月6日 >

グループ練習時、グループリーダーにゆっくり合わせるように助言した。

打楽器やリコーダーとも、うまく合ったのでうれしそうな様子だった。

< 9月8日 >

リコーダーは1学期よりも上手になってきたので、一人で練習してみた。机間指導をしながら、少しでも進歩が見られると認めた。担任にも様子を報告して褒めてもらった。

まだ落ち着かず席を離れることもあるが、以前よりも友達と合わせられるようになった。テンポが速い曲になると、合わせるのはまだ難しいようだ。

< 10月6日 >

クラス合奏の楽器を決め希望の楽器を担当することになった。パート譜を渡して練習した。主旋律はできたので、副旋律のパート譜を渡して挑戦させた。

副旋律はまだできていないが、あきらめずに練習するようになった。

< 10月13日 >

副旋律ができたので同じ楽器の友達と合わせてみる。次に他の楽器とも合わせる。

他の楽器ともうまくとけ合い、合わせる喜びを感じているようだった。「何回も合わせよう」と意欲的な発言が見られた。

【実践例 高学年（第6学年）】

1 学習前（観察児童の音楽的な資質や能力の習得状況と課題の把握）

(1) 観察児童について

意欲的に取り組んでいる。リズム感もよく合奏は得意である。声は変声期に入っていて、高音が出しにくかったり音程が不安定だったりするので指導が必要である。

(2) 育てたい力（評価規準の4観点より）

創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高める。曲想を感じ取って、表現を工夫することができる。

2 学習中及び学習後（児童のよさを見出だし、次時の改善に向けた指導と評価の手だて）

< 5月19日 >

歌唱のとき高音が出ないので、変声期の話をして、無理に出さなくてもよいと助言をした。

歌える音域の部分をよく歌っている。変声期でも無理なく歌える選曲をした。

< 6月11日 >

グループ合奏のリーダーになったので、グループで強弱・速さ・楽器のバランスを話し合うように助言した。

グループをまとめ、グループ合奏の計画を立てるよう指導した。

< 6月18日 >

グループでの練習時、「主旋律が弱い」と助言をして、もう1度話し合いをした。

助言を生かし、主旋律担当の人数を増やしたり、楽器の組み合わせを変えていた。

< 9月29日 >

クラス合奏で打楽器を選んだ。リズム譜を渡して、難しいリズムにも挑戦した。

できたので、さらにアレンジを工夫するように助言した。

主旋律の入ったテープを聞きながら、曲に合ったリズムを繰り返し練習していた。

本人が理解できないことを数回説明したところ、アレンジの工夫を一つ見付けた。

< 10月6日 >

「もっとうまくなりたい」と言うので、専門家の演奏が入ったCDを聴くように助言。

さらに工夫を繰り返し、完成していった。歌に対して意欲的に取り組んでいる。

< 10月20日 >

次の合奏曲に入り鍵盤楽器を選んだ。打楽器との違いにとまどいもあるように見られたが、奏法を教えるとすぐに覚えて弾けるようになった。副旋律を弾いてみた。

今まで打楽器を担当することが多かったが、他の楽器も経験することで合わせる喜びや工夫する楽しさを知り、意欲を更に高めたようだ。声に変声期に入っているため、響きのある声で歌うことなどを強要せず、安心して歌うことができるよう指導する。

(3)「ミュージックカルテ」を活用した成果と課題

成果

「ミュージックカルテ」を活用することによって、教師が、評価を次の指導につなげていこうとする態度が見られるようになった。5月、「ミュージックカルテ」を活用しはじめたころは、言葉だけの指導が重点であったが、育てたい力、身に付けたい音楽的な資質や能力を明確にし、「この時間はこれを評価する」という評価の観点を明らかにして授業を行ったため、指導の改善へと結び付けるようになっていった。また、「ミュージックカルテ」の活用によって、一人一人の児童のよさや可能性を見だし、指導することができるようになった。一斉指導における学習活動の中では、観察児童の変容を音楽的な資質や能力の向上として、見ることができるようになったり、一人一人の児童の実態を的確に把握できるようになった。児童の変容をとらえ、個々の課題を改善しようとする手だてを迅速に考えることが可能になった。具体的には、次のような成果が見られた。

児童の姿として表れた成果
<ul style="list-style-type: none">・ 児童自ら学習の目当てを理解して、自分が何を学習することが必要なのかが分かった。・ 児童同士がそれぞれのよさを認めて理解するようになった。・ 児童自ら自信をもち、楽しく音楽活動にかかわるようになった。・ 児童自ら教師へのアドバイスを聴こうとする姿勢が見られるようになった。
教師として指導と評価にかかわる成果
<ul style="list-style-type: none">・ 幅広い視野から児童を見ることができるようになった。・ 学習活動においてつまづいている児童や、課題について児童の学習活動が予想できるようになり、そのために教師として何を工夫すればよいのかが分かるようになった。・ 学習前、学習中及び学習後の記録をとることによって、一斉指導の中でも児童一人一人の思いや願いを大切にすることができるようになった。・ 一人一人の児童に合った指導法を瞬時に考えられるようになった。・ 指導について細かい段階を踏んで考えられるようになった。・ 指導と評価を結び付け、児童のよさを伸ばすために何をしたらよいのかを見極めることができるようになった。

課題

ア 記録を毎回取り続けるための時間の確保が必要である。短い時間で的確な指導及び評価を行う方法を開発し、児童の学習状況を見極めたり、それに対する指導を行ったりして、個に応じた指導と評価の更なる改善を行う。

イ 毎回の授業の中での児童の見方、評価の方法などを一層改善し、そこでの評価がそのまま次の指導に生きる評価の蓄積となるよう、客観的で児童自ら納得できる評価として指導に結び付けることができるようにしていく。

ウ 「ミュージックカルテ」の様式については、さらに児童の発達段階に応じた多様な表現活動に生かすことができる領域別、題材別の実態把握ができるように検討、改善を加え、全児童を対象に継続していく。

2 観点別学習状況の評価を基本とした指導と評価の工夫

(1) 「学級別題材別評価シート」の活用について

音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるためには、学習前や学習中、学習後での具体的な指導と評価についての効果的な方法として、観点別学習状況の評価を基本とした評価方法を発展させることが必要であると考え、「学級別題材別評価シート」を作成した。このシートは、実際の授業の流れの中で、児童全員の評価を一枚にまとめて記録することができるため、毎時間の授業の中での評価を積み重ね、次の授業や題材での指導の改善につなげていくことが特徴である。

このシートの内容の項目は、題材の評価規準一覧に示した題材名、教材名、目標の他に具体的評価規準、評価の場面、評価の方法を明記し、いつ、どこで、どのように評価するのかははっきり分かるようにした。一人一人の児童の欄には目標に対する実現状況を短く記録していった。

(2) 「学級別題材別評価シート」の成果と課題

成果

「学級別題材別評価シート」を活用する際、「十分に満足できると判断される」児童と「努力を要すると判断される」児童については、チェック欄と記入欄を設けた。記入については、「おおむね満足できると判断される」児童は、チェック欄は空欄とし、「努力を要すると判断される」は、チェック欄に記入し、具体的な児童の様子と指導内容を簡単に記入した。また、個々の児童について気が付いたことや配慮したことがあれば、評価をしてチェック欄の右側に箇条書きにした。そのため、次時の学習で解決することができた。また、児童一人一人が目標を実現することができたかを評価するため、毎時間の具体的評価規準と指導内容を照らし合わせ「努力を要すると判断される」児童の把握と児童全員を「おおむね満足できると判断される状況」にする指導をどのように改善していったらよいか分かるようになった。そして、題材の目標に対する指導が一目瞭然となったため、指導のための積み重ねや教師が毎時間の児童を見る観点が明確になり、児童が「今日の授業ではここができればいいんだ。」と目標をもつことができるようになった。

このように、シート一枚の中で、題材の流れと児童の学習記録の一覧を見ることができるので、学期末等の評定の際にも有効な資料として活用することができた。

課題

ア 「学級別題材別評価シート」の形式については、さらに効果的な活用を見いだしていきたい。

イ 各学校で教師が評価規準にそって指導の内容を改善し、よりよい指導の工夫を目指していくことが必要である。

本研究で活用した、題材の評価規準一覧と「学級別題材別評価シート」の活用例を資料1、2として掲載する。

(資料1) 題材の評価規準一覧 第3学年

学年	学期	題材名	題材の目標	題材の評価規準			
				(ア) 関心・意欲・態度	(イ) 感受や表現の工夫	(ウ) 表現の技能	(エ) 鑑賞の能力
3年	一学期	春の歌を歌おう	・友達と一緒に歌ったり身体表現をしたりして、春の季節の歌を楽しむ。	友達と仲良く歌ったり、進んで身体表現したりしようとしている。	範唱や友達の歌を聴いて、歌い方や身体表現を工夫している。	範唱を聴いて歌ったり、友達の声と合わせて歌ったりしている。	歌ったり身体表現したりしながら、音楽全体の曲想を感じ取って聴く。
		ドレミになれよう	・旋律を階名で模唱したり、視唱したりして、楽譜を見て歌うことに慣れる。	階名に興味をもち、進んで階名唱をしようとしている。	範唱や友達の歌を聴いて、高音を意識して歌っている。	楽譜と音の関連を理解し、八長調の旋律を模唱したり視唱したりしている。	楽譜と音の関連を理解し、八長調の旋律を階名で歌いながら聴く。
		リコーダーと友達になろう	・リコーダーに親しみ、美しい音を出そうとする。 ・リコーダーの基本的な奏法に慣れる。	リコーダーに関心をもち、進んで聴いたり演奏したりしようとしている。	リコーダーの音色の美しさを感じ取り演奏の仕方を工夫している。	タンギング、運指息遣い、姿勢に気を付けて演奏している。	リコーダーの音色の美しさを感じ取って聴く。
		ようすを思いうかべて歌おう	・様子や気持ちの変化に気付いて聴いたり、気持ちを込めて表現したりする。 ・歌詞や曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりする。	様子や気持ちを想像しながら演奏し、楽しもうとしている。	想像豊かに聴いて歌詞の内容を感じ取り、イメージに合った歌い方を工夫している。	声や音の出し方に気を付けて、気持ちを込めて表現している。	場面の様子を感じ取って想像しながら聴く。
	二学期	日本のふしに親しもう	・日本に古くから伝わる歌やふしに親しむ。	日本の歌やふしに興味をもち、進んで活動しようとしている。	日本のふしの特徴を感じ取って歌ったり、リコーダーで演奏したりしている。	自然で無理のない発声で歌い、リコーダーで高いド・レを吹いている。	日本のふしの特徴を感じ取って聴く。
		やわらかい音や声で歌おう	・やわらかな声やリコーダーの音色を感じ取り、演奏の仕方を工夫する。 ・曲想に合った音や声を生かして表現を楽しむ。	曲想に合った音や声で歌うことに興味をもち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	歌声やリコーダーの音色に気を付けて曲想に合った演奏の仕方を工夫している。	曲想を感じ取り、歌い方やリコーダーの音の出し方に気を付けて演奏している。	曲想やリコーダーの音色の美しさを感じ取って聴く。
		リズムや拍子を感じて演奏しよう	・拍の流れののって歌ったり打楽器を演奏したり身体表現したりする。	拍の流れを感じ取って体を動かしたり進んで表現したりしようとしている。	拍の流れを感じ取って身体表現したり歌ったり、打楽器を演奏したりしている。	拍の流れののって歌ったり、奏法に気を付けて演奏したりしている。	楽曲を特徴付けているリズム、旋律などに気付いて聴く。
		音楽とお話で遊ぼう	・物語を音楽で表現したり、場面に合う音を工夫したりする。	物語の音楽に興味をもち、イメージをもって歌ったり、音で表したりしようとしている。	物語の情景を思い浮かべて歌い方を工夫したり、身の回りの物や楽器で場面に合う音をつくっている。	物語の情景を思い浮かべ気持ちを込めて歌ったり、奏法に気を付けて場面に合う音を出している。	劇音楽の楽しさ表現の豊かさを感じ取って歌劇の音楽を聴く。
	三学期	ふしを重ねて演奏しよう	・旋律の重なり合う響きを感じ取りながら聴いたりリコーダーで演奏したりする。	ふしの重なりに興味をもち、進んで友達とふしを重ね合わせようとしている。	2つのパートが重なり合う響きを感じ取って曲想表現を工夫している。	伴奏や他のパートを聴き、演奏の仕方に気を付けて自分の旋律を演奏している。	旋律の重なり合う美しさを感じ取って聴く。
		合奏を楽しもう	・楽器の音の重なりを感じ取りながら聴いたり、表現の工夫をしたりする。 ・友達と一緒に合奏する楽しさを味わう。	色々な楽器を使って合奏することに興味をもち、進んで活動に取り組もうとしている。	お互いの音が重なり合う響きを感じ取って合奏している。	旋律楽器や打楽器を適切に扱い、演奏の仕方に気を付けて合奏している。	楽曲全体の曲想や音楽の流れを感じ取って聴く。
		気持ちをこめて演奏しよう	・発声や発音に関心をもって歌ったり、曲想を感じ取って演奏したりする。	気持ちを込めて表現できるように、友達と協力して活動に取り組もうとしている。	言葉の意味や歌詞の内容を感じ取り、曲想表現を工夫している。	旋律、強弱、速度などに気を付けて演奏している。	歌詞の場面を思い浮かべながら、範唱や友達の演奏を聴いている。

(資料2)「学級別題材別評価シート」活用例

3年1組 平成15年10月

題材名 やわらかい音や声で歌おう	時	具体的評価規準	評価の場面	評価方法
教材 「あの雲のように」「エーデルワイス」	1	ア やわらかな声で歌うことに興味・関心をもち、進んで歌おうとしている。	身体表現、歌唱	活動観察
題材の目標 (1) やわらかな歌声やリコーダーの音色を感じ取り、あこがれをもって演奏の仕方を工夫する。 (2) 曲想に合った音や声を生かして演奏を楽しむ。	2	イ 歌詞や旋律などの曲想で、やわらかな声を出すように表現を工夫している。	発言、歌唱	発言、演奏聴取
	3	イ 歌唱の表現を生かし、やわらかな音のリコーダー演奏を工夫している。	リコーダー演奏	演奏聴取
	4	エ リコーダーの音色や音の重なりを感じ取って聴いている。	範奏鑑賞	発言、表情
	5	ウ やわらかな響きに気を付けて、歌ったりリコーダーを演奏している。	グループ活動	演奏聴取
	6	ア お互いの音を聴き合いながら、友達と協力している。	グループ発表	活動観察、発言、表情

A児	B児	C児	4観点を明確にして1時間内に行う評価の観点を絞る。 ア関心・意欲・態度 イ音楽的な感受表現の工夫 ウ表現の技能 エ鑑賞の能力		F児	G児	H児
					音の響きでの発言		
I児	J児	K児	L児	M児	N児	「努力を要すると判断」した児童は と、 次時に必要な指導内容を記入する。	
	表情が硬い					運指	
		やわらかい声					
Q児	R児	S児	T児	Y児	V児	W児	X児
		フレーズ感		フレーズ感			
				「十分満足できると判断」した児童は と、 その根拠となる簡単な記述を記入する。			
Y児	Z児						
	やわらかい声						
1時間ごとの具体的評価規準に対応させて、 毎時間全員の評価を行う。 1段目が1時目、6段目が6時目の評価になる。							

3 「音楽的なアプローチ」による指導と評価の工夫

(1) 「音楽的なアプローチ」による指導計画について

平成14年度から新しい学習指導要領が全面実施され、改訂の趣旨である「豊かな情操を養う指導が一層充実して行われるようにすること」が求められている。そのために、生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育て、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けることが必要である。そこで、児童一人一人のよさや可能性を引き出し、思考力や判断力、表現力を児童自らが発揮したり、教師が引き出したりする場面を意図的に設定し、題材の目標に応じた、効果的な指導と評価として、「音楽的なアプローチ」に取り組むこととした。

「音楽的なアプローチ」とは、音楽学習において、演奏ができる、できないという技能を習得することに偏ることなく、生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てる取り組みである。具体的には、楽曲を特徴付けている様々な要素のはたらきを理解することに重点を置いて音楽活動を進めること。音楽により児童の心を揺さぶることによって感性をはぐくみ、音楽的な感受や表現の工夫に生かすことをねらいとした。

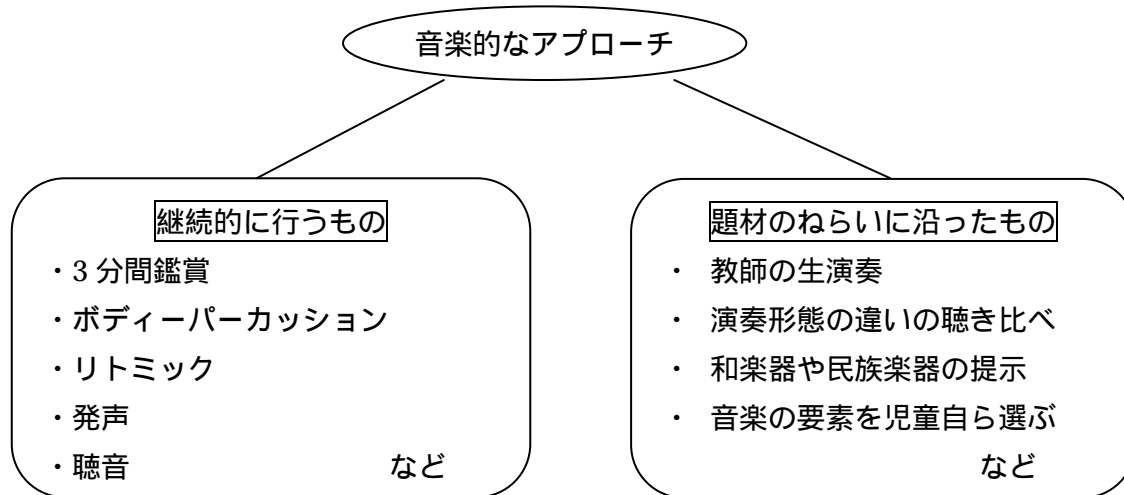
「音楽的なアプローチ」は、題材の評価規準と対応するよう設定した。例えば具体の評価規準「日本のふしに関心をもって歌っている。」に対しての「音楽的なアプローチ」は「越天楽今様の構成音を出し、2種類の伴奏を提示する」とし、構成音を使った和音での伴奏、アルペジオの伴奏を提示、どちらでもふしと合うことを確認し、児童が構成音を使ったときの独特の雰囲気を感じることができ、また2種類の伴奏の中から主体的に選ぶ場面を設定した。

指導案に記載した例 第6学年 「日本のふしに親しもう」

具 体 の 評 価 規 準	日本のふしに関心をも って歌っている。 工夫されたいろいろな 表現に関心もち、楽 曲の雰囲気を感じて演 奏している。	思いが表現できる 楽器を選んでいる。 楽器の音色、速さ、 加えるパートなど を考えて表現の工 夫をしている。	楽器の基礎的な演 奏技能を身に付け て演奏している。	日本やアジアの音楽の特 徴やよさを感じながら聴 いている。 グループごとの表現の違 いに興味をもって発表を 聴いている。
音 楽 的 な ア プ ロ ー チ	「越天楽今様」の構成 音を出し、2種類の伴 奏を提示する。 メドレーの演奏順を考 える場面を設定し、児 童がグループごとの演 奏の雰囲気を感受し、 全体の流れを考えるよ うに促す。	楽器やシンセサイ ザーの音色を提示 する。 教師が、楽器やマ レットを替えて演 奏したり、加えるパ ートの例を示した りする。	必要な場合は編曲 して児童が演奏し やすいようにする。	雅楽の楽器や舞台、衣装 が分かりやすい映像資料 を選び、児童の関心が高 まるようにする。 グループで工夫する前と 工夫した後の演奏をする 場面を設定し、児童にと って工夫した点が明確に なるようにする。

(2) 継続的な実践及び児童の主體的な活動

「音楽的なアプローチ」は、児童のよさや可能性を引き出すための指導や評価方法の工夫である。そこで、生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てるために、本研究では、大きく分けて次の2つの「音楽的なアプローチ」を実践した。



継続的に行う「音楽的なアプローチ」では、中でも「3分間鑑賞」に重点を置いて実践した。「3分間鑑賞」では、教師が「ミュージックカルテ」で把握した児童の実態を基に鑑賞教材を吟味し、提供した。そして、効果的な指導と評価として、音楽のジャンルを特定することなく多様な音楽を選曲し、3分間という時間を設定し、普段、音楽をじっくり聴くことに慣れていない児童にも受け入れやすいよう工夫した。変容した児童の姿を「ミュージックカルテ」や「学級別題材別評価シート」の指導と評価へ反映させていった。さらに、系統的、継続的に改善を図ることができるよう、以下のように、「3分間鑑賞」の教材を選択していった。

「3分間鑑賞」の教材例

タイトル	演奏者	収録曲	音源	内容
天と地と空 1000年の悠雅	東儀 秀樹	越天楽 / ふるさと 他	DVD	東儀秀樹による箏篋など、雅楽の演奏。
フジコ・ヘミング とウイーン仲間 たち	フジコ・ ヘミング	ピアノ五重奏曲「ます」/ ラ・カンパネラ 他	DVD	高学年の教科書に載っている鑑賞曲が収録されている。
越天楽のすべて	宮内庁楽部 他	越天楽 / 黒田節 / 賛美歌「おもい いずるも」 他	CD	雅楽「越天楽」が様々な編曲で演奏されている。
音楽のおくりもの フォー・キッズ	小澤 征爾 (指揮)	行進曲(くるみ割り人形より) / カルメン前奏曲 他	CD	小澤征爾が子どもたちに選んだ名曲集。
ねこふんじゃった SPECIAL	小原 孝	ねこのカノン / 悲しみのねこふ んじゃった 他	CD	「ねこふんじゃった」の様々な編曲を収録。
この道	米良 美一	からたちの花 / 浜辺の歌 他	CD	カウンターテナーの米良美一による日本歌曲集。

(3) 「音楽的なアプローチ」による成果と課題

成果

「音楽的なアプローチ」により、児童のよさや可能性を引き出すための指導と評価の工夫として、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けるための手だてを探ってきた。その結果、実証授業によって、一人一人の児童が自ら音楽とかかわりを持ち、自分の思いや願いを音楽で表現する力を身に付ける事ができた。また、音楽で児童の内面的なものを引き出し、心を動かすことができるようになった。具体的な成果としては、次の内容があげられる。

- ア 現状把握によって、ミュージックカルテとの関連を図り、教材の選択や児童自らが主体的にかかわる多様な学習活動により指導と評価を適切に行うことができるようになった。
- イ 児童一人一人の音楽的な資質や能力を把握し、各自の目標を明確にして、個に応じた音楽の学習メニューが作成できるようになった。
- ウ 教材の分析や児童の思いや願いを生かし、児童が興味・関心をもつことができるような教材を選択することができるようになった。
- エ 音楽を使って児童に考えさせる活動の場を設定し、児童の思いを生かせるような音楽とかかわりをもつことができるようになった。
- オ お互いに聴き合うことによって感じる心が働き、児童自らの工夫へと発展して、表現力の向上へとつながっていった。

これらの取り組みから、音楽で児童を変容させるためには、児童の側に立った教材の選択、日々の授業の中での一層の指導と評価の工夫が必要となり、学習前や学習中、学習後の振り返りや試行錯誤を繰り返すことが重要であった。児童の実態にあった手だてを工夫、改善することで、教師が育てたい個々の力が見えてきた。それは、児童が音楽を聴こうとしたり、感じ取ろうとしたりする上で大切な事であり、聴きたい、歌いたい、奏でたい、創りたい、表現したいという関心・意欲・態度の育成にもつながっていった。

課題

研究を進めていく中で、児童は自分たちの価値観で音楽を楽しみ、音楽と深くかかわろうとする姿が見られた。このことは、教師の考え方を押し付けることなく、児童一人一人の感じ方が違うということをしかりと念頭において指導と評価をしていくことが重要であり、児童が望む豊かな音楽学習へと発展していくよう今後、さらなる改善が必要である。

4 実証授業について

個に応じた「ミュージックカルテ」、観点別学習状況の評価を基本とした「学級別題材別評価シート」、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てる「音楽的なアプローチ」の3つの観点から、指導と評価の工夫について実証授業を進めていくこととした。

実証授業の学年は、音楽的な感受や表現、鑑賞について効果的な指導と評価を系統的、継続的な視点から実証するために、高学年を対象に行った。実証授業の内容は、表現と鑑賞の活動を通して、次のとおり、4つの授業により実証した。

(1) 実証授業 第6学年 鑑賞 「美しい響きを味わって」

(ア) 教 材	(イ) 題 材 の 目 標	
「アメイジンググレイス」「さくらさくら」「アリラン」「管弦楽のためのラプソディ」「八木節」	いろいろな演奏形態の歌曲や管弦楽曲を聴いてそのよさや美しさを味わって聴く。 音の重なりや和声の響きを感じ取って表現を工夫する。	
(ウ) 学 習 内 容		
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次 いろいろな国の歌曲に関心をもって聴いたり、歌唱表現を工夫したりする。 ・第二次 管弦楽器の音色の特徴や重なり合う響きを感じ取って聴く。 ・第三次 互いのパートの役割や旋律を感じながら、美しい響きで合奏する。 		
(エ) 本時の目標		
いろいろな国の歌声のよさを感じ取り、世界の人々や音楽に関心をもつ。		
(オ) 本時の展開 (第一次 第1時)		
学習内容	・ 学習活動	教師の働きかけ 評価規準
<p>本時の活動内容を把握する。</p> <p>「日本や世界の歌を聴こう」</p> <p>音楽的なアプローチ 「ウスクダラ」を聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に知られている「日本の歌」や「世界の歌」で知っている曲名を挙げる。 民族独特のリズムや旋律を感じ取って聴く。 <p>音楽的なアプローチ 「イントロクイズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに曲の印象や曲名、国名を選んで記入する。 ・曲名と国名を確認しながら感想を発表する。 ・もう一度聴きたい曲を数曲選び、民族独特の響きや雰囲気を感じ取って聴く。 知っている国の歌を気持ちを含めて歌う。 ・本時の感想を書き、互いに聞き合う。 ・「アリラン」「さくらさくら」などを歌う。 		<p>親切なトルコの人々に触れ、日本でも有名になったトルコ民謡を教師の演奏で紹介する。</p> <p>5年生のときの民謡調べのことを振り返り外国の歌曲にも興味をもてるようにする。</p> <p>イントロクイズと題し、意欲的に取り組むようにする。</p> <p>分からない所は空白にし、気に入った曲や感想なども心にとめておくよう伝える。</p> <p>地球儀で国名と地理関係を把握し、歌で世界一周したことに気付けるようにする。</p> <p>演奏者の異なるものも提示する。</p> <p>歌が人の心をつないできたり、心を支えてきたりした例を示し、歌の魅力伝える。</p> <p>「曲名や国名を想像しながら、いろいろな民族の歌声に関心をもって聴いている。」(ア 鑑賞)</p>
(カ) 本時における評価の進め方		
<p>評価方法 鑑賞中の表情やワークシートへの記入状況を観察する。また授業中の発言や、ワークシートの感想欄や「聴いたことがある」「好き」の欄からも世界の人々や音楽に対する興味・関心を読み取る。</p> <p>Aと判断するキーワード ・音楽に耳を傾け集中して聴いていたり、積極的にワークシートへの感想を記入したりしている。・進んで感想を発表している。・気に入った曲を多く挙げている。</p> <p>Cと判断される状況への働きかけ ワークシートの記入ができずつまづいている児童には、空白が</p>		

あってもよいことを知らせ、自分なりの聴き方で楽しむよう声をかける。また、感想欄には率直な気持ちを書けばよいことを伝える。集中して聴いていない児童には傍らに行き、落ち着いて聴くことができる雰囲気をつくるようにする。

学級別題材別評価シート		6年2組		(H.15年9月)	
題材名	具体の評価規準	評価の場面	評価方法		
美しい響きを味わって	1 ア 曲名や国名を想像しながらいろいろな民族の歌声に関心をもって聴いている。	日本や世界の歌を鑑賞する	表情・発言観察・ワークシート		
	A	B	C	D	E
	アメリカの歌に興味		メモ欄に1曲ずつの感想あり		
					演奏形態の聴き分け難しい

(キ)本時の「音楽的なアプローチ」と「ミュージックカルテ」

教師による民族楽器"サズ"と歌の演奏でトルコ民謡「ウスクダラ」を聴く。
イントロクイズと題し、日本や外国の歌曲の一部を聴く。

日本の歌・世界の歌 イントロクイズ

本題材の導入で児童が興味・関心をもって、独唱や重唱などの声の種類や歌声の美しさを感じ取れるよう、世界の歌のイントロクイズを考えた。



イントロクイズで扱った世界の歌はその後、毎時間の「3分間鑑賞」で1曲ずつ鑑賞していくことにした。また、今年が日本における「トルコ年」であることにちなみ、全校児童がトルコの歌を音楽朝会で歌うなど民族音楽に対する興味を多くの児童に広げていくことができた。なぜ世界の音楽を学ぶのか、定義付けをはっきりさせ、児童に伝えていくことを忘れないようにしたい。

K男のミュージックカルテ

育てたい力 授業に集中することで積極的に音楽にかかわり特に器楽演奏の技能を高める。

- 5/20 保護者と会う機会あり。鼓笛に向けて、家庭でのリコーダー練習の成果を感じ取れた。
- 5/23 ブラジル Aの部分合格。難しいところをよく頑張った。
- 6/30 久々の階名読み。意欲的な行動が見られず、授業後、他2名と個別指導。音程も正しく階名唱した。2点Fまで出た。

本時 クイズの正解は10曲中2曲だったが、全曲を「好き」と答え、授業が楽しかったと書いていた。姿勢がとてもよかった。

変容の姿 授業への集中が見られるようになってきた動から、周囲の誰よりも早く読譜をし、リコーダーを演奏している姿に友達が賞賛の拍手を贈る場があった。

(2) 実証授業 第6学年 器楽 「日本のふしに親しもう」

(ア)教材名	(イ)題材の目標	
雅楽「越天楽」 「越天楽今様」	旋律の特徴や音色、響きの違いを感じ取りながら、日本の音楽に親しむ。 全体の響きを感じ取って、表現を工夫して演奏する。	
(ウ)学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次 日本やアジアの音楽に関心を持ち、音色や旋律の特徴を味わい、様々な音楽があることを知る。 ・第二次 越天楽のふしに親しみ、楽器の選択や演奏の仕方を工夫して「越天楽今様」を演奏する。 ・第三次 グループで考えた「越天楽」の表現の工夫を生かした順番を考え、メドレー演奏をする。 		
(エ)本時の目標		
楽器の音色、速さ、加えるパートなどを考えて、表現の工夫をしよう。		
(オ)本時の展開(第二次 第5時)		
学習内容	・学習活動	教師の働きかけ 評価項目
<p>今月の歌</p> <p>「やさしい風」を歌う。</p> <p>「越天楽今様」を歌う。</p> <p>音楽的なアプローチ 雰囲気を感じ取る鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「谷茶前」「エルクンバンチェロ」「ラ・クンパルシータ」を一部分鑑賞する。 ・ 「越天楽」を全員で演奏する。 ・ リコーダーや打楽器などで全員で雅楽風に合奏する。 ・ 「越天楽今様」の表現を工夫する。 ・ 教師の説明や演奏を聴き、活動内容を把握する。 <p>音楽的なアプローチ</p> <p>：事前に教師が、楽器を替えて演奏したり、加えるパートの例を示したりして、児童が表現を工夫し、演奏するときの参考になるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループに分かれる。 ・ グループ内で合わせて音を聴き工夫する。 ・ 工夫した点をグループワークシートに記入する。 ・ 個人のワークシートに工夫した点と感想をまとめ、発表する。 		<p>児童一人一人に声をかける。</p> <p>工夫する活動の参考になるような音楽を聴いたり、雰囲気を感じ取ったりすることができるようにする。</p> <p>全体の音の響きをよく聴きながら演奏するように助言をする。</p> <p>工夫する前と工夫した後の違いが明確になるよう、2種類の演奏ができるようにする。</p> <p>工夫する観点の説明と教師の演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちのイメージに近づけるためにはどうしたらいいか? ・ 楽器は? ・音量のバランスは? ・速さは? ・加えるパートは? (教師の演奏例を示す) <p>グループごとに回り、アドバイスをして行く。</p> <p>-----</p> <p>楽器の音色、速さ、加えるパートなどを考えて表現の工夫をしている。(イ)</p> <p>グループ活動観察、ワークシート</p> <p>-----</p> <p>他のグループの感想を聞き、次の時間の発表に期待をもたせるようにする。</p>

(カ) 本時における評価の進め方

評価方法 グループごとに練習しているところを回り、工夫する点についての話し合いに参加しているか、工夫した点を意識した演奏をしているかを観察する。ワークシートの感想を後で読み、評価する。

Aと判断するキーワード ・グループ練習のときに進んでアイデアを提示している。

・工夫した点を意識して演奏している。

Cと判断される状況への働きかけ ・必要な場合は、こちらで編曲して児童が演奏しやすいようにする。・周りの音や自分の音をよく聴くように声かけをする。

学級別題材別評価シート		6年1組		(H15年9月)	
題材名	具体的評価規準	評価の場面	評価方法		
日本のふしに 親しもう	4 ウ 楽器の基礎的な演奏技能を身に付けて演奏している。	楽器練習時	聞き取り ワークシート		
	5 イ 楽器の音色、速さ、加えるパートなどを考えて表現の工夫をしている。	グループ活動時	聞き取り ワークシート		
	A	B	C	D	F
友達にも教える。	欠			リズムが把握出来ていない。	一人のパートでも正確に演奏
自分の意見を出している。	構成音を使った伴奏を考えた。				

(キ) 本時の「音楽的なアプローチ」と「ミュージックカルテ」

グループごとの工夫のテーマに沿った曲を鑑賞し、曲の雰囲気参考にする。

事前に教師が、楽器を替えて演奏したり、加えるパートの例を示したりして、児童が表現を工夫し、演奏するときの参考になるようにする。

グループ活動終了後の個人のワークシート。このグループは始めの部分をつけ足したり、締太鼓のリズムを変えたりしていた。まだグループ全員には伝えていないが、輪奏をしたい、という考えがあることが分かった。次時に実際に挑戦していた。

グループ活動時のワークシート。「音楽的なアプローチ」で持続音の違いの例を示したこともあり、木琴を鉄琴にする工夫が出た。他の班でも構成音を使った伴奏を考えたり、使っていなかった打楽器を加えたりして、教師による「音楽的なアプローチ」が参考になったと思われる。

本題材では日本のふしにさらに親しむため、グループごとで表現の工夫をした。グループそれぞれの目指すものが違い、使う楽器も多様になったが、「ミュージックカルテ」や「学級別題材別評価シート」で一人一人の状況を把握していたため、児童に合わせた対応ができた。

表現を工夫して自分たちの「随天楽合奏」にしよう

「楽しいがね」の音とリズム

楽器の種類	音程・リズム	演奏法	加えるパート	役割
・木琴を足す	・4拍子に合わせるように	・速くする	・前奏部分のみ	・リズムの維持
・太鼓の音を加える	・全曲の演奏の音が揃うように		・あり	・リズムの維持
・鉄琴の音を加える			・あり	・リズムの維持

工夫したこと

理由	効果	留意点
・木琴の音を加えることで、リズムが揃うようにする。	・リズムが揃うことで、演奏がスムーズになる。	・木琴の音は、前奏部分のみで加える。
・太鼓の音を加えることで、リズムが揃うようにする。	・リズムが揃うことで、演奏がスムーズになる。	・太鼓の音は、全曲の演奏の音が揃うように加える。
・鉄琴の音を加えることで、リズムが揃うようにする。	・リズムが揃うことで、演奏がスムーズになる。	・鉄琴の音は、全曲の演奏の音が揃うように加える。

感想

この曲は、とても楽しかった。リズムが揃って、演奏がスムーズになった。友達と一緒に演奏することが、とても楽しかった。

Y 男の「ミュージックカルテ」

(育てたい力) 積極的に音楽活動に取り組めるようにしたい。

6/5 楽器練習。楽譜を持たないので演奏できない。
6/19 個人練習。意欲あり。

本時・・・興味のあるドラムを担当し、音を小さくする、フィルインを入れる工夫をする。

変容の姿・・・興味のあるところから進んで発言するなどの意欲が見られるようになってきた。

(3) 実証授業 第6学年 表現(歌唱)「美しい響きを感じ取って表現しよう」

(ア) 教材	(イ) 題材の目標
山田耕筰の歌曲 「ふるさと」 「スキンプルシャンクス」	歌声の特徴や音の重なりに興味をもって、表現する。 歌詞の表す情景を想像して、曲想に合った表現を工夫する。 音楽の美しさを感じ取って、独唱したり合唱したりする。
(ウ) 学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次 歌声の特徴を聴いて美しさを味わったり、声の響きに気を付けて歌ったりする。 ・第二次 重なり合う音の美しい響きを感じて合唱する。 ・第三次 美しい響きを感じ取って、独唱したり合唱したりする。 	
(エ) 本時の目標	
自分の表現の仕方を見付け、友達の見などを参考にして、表現の仕方を工夫する。 身体表現をするために、ボディパーカッションやジェスチャーゲームをする。	
(オ) 本時の展開(第一次 第1時)	
学習内容	教師の働きかけ 評価規準
<p>デイリートレーニングをする。</p> <p>・発声練習、ジェスチャーゲームをする。</p> <p>音楽的なアプローチ ボディパーカッション 「スキンプルシャンクス」を合唱する。</p> <p>本時の活動内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ独唱グループごとに分かれて練習をする。 ・ 歌詞や歌い方の確認をする。 ・ 歌詞の中から身体表現につなげたい言葉を見付け、動作を付ける。 ・ グループの中で互いに意見を交換し、それぞれのイメージに合う表現を完成させる。 ・ グループの中で歌う順番を決める。 <p>独唱部分を入れて全体合唱する。 感想を出し合い、次時の発表の参考に する。</p>	<p>声の出し方、姿勢、身体表現の留意点などが確認できるようにする。</p> <p>合唱部分のハーモニーや、歌い出しの部分の留意点を確認する。</p> <p>グループ練習の進め方カード、独唱部分の抜き出し歌詞カード、練習用のカラオケMD、練習室をグループごとに用意し、グループ練習の環境を整える。</p> <p>グループを回り、練習の進め方、動作の付け方などのアドバイスをする。</p> <p>本時と次時に分かれて、一人一人発表することを伝える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の表現の仕方を見付け、友達の見を参考にして、表現の仕方を工夫している。(イ)</p> <p style="text-align: center;"><表現活動、観察></p> </div>
(カ) 本時における評価の進め方	
<p>評価方法 グループ練習しているところを回り、工夫する点についての話し合いに参加しているか、工夫した点を意識した表現をしているかを観察する。その後、全体合唱での独唱部分の歌い方を聴いたり、動作の工夫を観察したりする。独唱を入れた全体合唱をVTRに撮影し、表現観察を行う。</p> <p>Aと判断するキーワード ・グループ活動の時に積極的にアイデアを出している。・自分の表現の仕方を友達に積極的に披露している。</p>	

Cと判断される状況への働きかけ リズムに乗りやすい動作や声が出やすい動作をアドバイスする。

学級別題材別評価シート		6年2組		(H.15年11月)	
題材名	具体的評価規準	評価の場面		評価方法	
美しい響きを感じ取って表現しよう。	7 イ 歌詞の表す情景を感じ取って、歌い方や動作を工夫して独唱している。	全員の独唱部分を入れた合唱をして、VTRに撮る。		行動観察・表現観察	
A 動作の工夫		B		C 独唱になると硬い	
D 表情豊かに動作付け		E		F	

(キ)本時の「音楽的なアプローチ」と「ミュージックカルテ」

身体表現をするために、ボディパーカッションやジェスチャーゲームをする。

スズキの「ソングブック」のワークシート

1	まがきがついていて良かった。
2	物がついていて良かった。
3	二回目は、まがきを歌えよう良かった。
4	歌がうまかった。動作がつけばよかった。
5	まがきがついていて良かった。まがきを少しうまかった。
6	少し遅かった。

最後の録音結果の感想を書きなさい

歌がうまうま歌えて良かった。まがきをもう少しうまかった。

VTRを鑑賞することによって自分を振り返り、友達表情からも学ぶことができた。自分の記録を見た後、もう一度歌って、VTRに記録してほしいと申し出る児童が多くいた。



児童の意欲を引き出すためには、教材の精選が重要であると同時に、学習経験の少ないことについては継続的なトレーニングが効果的である。本単元のような身体表現を入れて歌うことに関しては、身体表現につながるボディパーカッションやジェスチャーゲームを毎時間授業の冒頭に少しずつ取り入れていった。

M子のミュージックカルテ

育てたい力 人とのかかわりの中で、表情豊かに自分の思いを表現できる力を育てたい。

- 5/30 表情は硬いが、美しい響きで合唱していた。
- 9/25 グループで小太鼓を担当しグループの中心で練習をしていた。
- 11/6 VTR撮影で堂々と自分の動作を付けて独唱することができた。

変容の姿 グループ活動を多く取り入れることにより、友達とのコミュニケーションが上手に取れるようになった。また、いろいろな表情で表現できるようになった。

(4) 実証授業 第5学年 題材「変奏曲を作ろう」

(ア)教材名	(イ)題材の目標
<p>「ます」 「月夜」 「ねこふんじゃった」</p>	<p>音楽的な諸要素の変化や構成に気を付けながら聴く。 変奏曲作りを通して、曲の組み合わせや構成を工夫する。</p>
(ウ)学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次 変奏曲の音楽的な諸要素の変化に関心をもって聴く。 ・第二次 音楽的な変化を工夫して主題を変化させる。 ・第三次 同じ主題からできた様々な変奏を、構成を考えて配列し、変奏曲を作る。 	
(エ)本時の目標	
<p>「ねこふんじゃった」を主題にした変奏を工夫する。</p>	
(オ)本時の展開(第二次 第二時)	
<p>学習内容 ・学習活動</p> <p>本時の学習内容を理解する。 「変奏を工夫しよう」</p> <p>音楽的なアプローチ 変奏の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の示す変奏の例を聴いたり、前時に弾いた主題の変奏をもう一度弾いてみたりする。 ・主題を工夫して変奏する。 ・「ねこふんじゃった」の主題を、リズムを工夫して変奏する。 ・リズムを変えたら、他の音楽的な要素の変化も工夫する。 ・できた変奏を聴き合う。 	<p>教師の働きかけ 評価項目 評価方法</p> <p>主題を様々なリズムで弾いたり、リズム伴奏に合わせて弾いたりして、変奏の工夫の仕方が分かるようにする。</p> <p>「自分のねこ」を決め、変奏の手掛かりにできるようにする。</p> <p>「自分のねこ」に近付けるため、どんな要素を変えるかを考え、工夫するようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>リズムを工夫して変奏させている (イ) <観察・ワークシート></p> </div>
(カ)本時における評価の進め方	
<p>評価方法</p> <p>工夫する活動中の様子を観察する。ワークシートに書かれたことから工夫の中身や過程評価する。</p> <p>Aと判断するキーワード アイデアの良さ・多様さ、リズム以外の音楽的な要素の変化。</p> <p>Cと判断する状況への働きかけ 考えた「ねこ」について、どんな様子を思い描いているかを聴き、ヒントを与える。また、一斉指導時に挙げたものの他に、例をいくつか示す。</p>	

(キ)本時の「音楽的なアプローチ」と「ミュージックカルテ」

題材名		学級別題材別評価シート		5年2組		(H.15年11月)	
変奏曲を作ろう		具体の評価規準		評価の場面		評価方法	
1	ア	変奏曲の音楽的な諸要素の変化に興味をもって聴こうとしている	変化したのは何かを聴き取る	発言観察・ワークシート			
2	エ	音楽的な諸要素の変化に気付いて聴いている	一覧表を見ながら聴く	発言観察・ワークシート			
3	イ	音楽的な諸要素の変化を感じ取っている	主題を変化させて演奏する	聴取			
4	イ	工夫して主題を変奏させている	変奏を工夫する	観察・聴取			

A	B	C	D	E
			明瞭な反応	記述が豊富 多くの要素
良いアイデア				

(キ)本時の「音楽的なアプローチ」と「ミュージックカルテ」

教師による変奏の例の提示。

聴き取りカード
特徴や変化を聴き取って書きましょう。

主 題	曲の感じ	主なふし	リズムの変化
		バイオリン ビオラ チェロ コントラバス ピアノ	
第1変奏		バイオリン ビオラ チェロ コントラバス ピアノ	
第2変奏		バイオリン ビオラ チェロ コントラバス	

変奏曲を作ろうワークシート
組 氏名

- こんなねこにしてみよう
()ねこ
- リズムはこう変える
(音符が言葉で書きましょう。)
- 他に変えるところは?
(速さ・拍子・強弱など)
何を どうする
() ()
() ()

この題材を実施するにあたり、各授業の始めの「3分間鑑賞」で様々なリズムの曲を聴いた。全ての活動のよりどころをリズムに絞って学習を始めたことで、児童はリズムの多様性や面白さを感じ、自らの創作活動にも意欲をもつことができた。また、出発点がはっきりしたことで、他の要素を工夫することへの発展もスムーズにできた。指導のポイントを焦点化して、聴くことと、演奏したり創作したりという活動が一体化する題材を開発し、児童に豊かな音楽経験を保障していきたい。

S児のミュージックカルテ

育てたい力 集中力を付け、現在もっている自由な発想と、表現力を更に伸ばしたい。

11/7 曲を聴く時は、様々な要素の変化を楽しみながらいろいろな表情をして、みんなから笑いを取っていた。「おもなふし」の欄のチェックは正しくないが曲の感じや変わったところの欄に一生懸命書き込んでいた。
11/9 曲の感じと主なふし以外の音楽的な諸要素については記述無し。楽器の音色の聴き取りは書いてあるができていない。

本時 席の近い友達とやりとりしながら自分の発想を生かしてリズムを工夫して変奏を作ることができた。

変容の姿 授業の流れに沿って考えたり楽しんだりできるようになり、もっている豊かな発想を生かせるようになってきた。

研究の成果と今後の課題

1 成果

研究主題「基礎的・基本的な資質や能力の確実な定着を図るための個に応じた指導と評価の工夫」を設定し、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付けることを目指して研究を進めてきた。研究仮説を『個に応じた指導と評価を工夫することによって、児童が「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、音楽学習にかかわる児童の資質や能力を確実に身に付け、生涯にわたって音楽を愛好する心情がはぐくまれるであろう。』ととらえ、研究を進めてきた。その結果、児童が自分の思いや願いを表現し、身に付けた音楽的な資質や能力を主体的に生かそうとする児童、音楽を楽しみ、生涯にわたって音楽とかかわろうとする児童の姿が見られるようになった。

具体的には以下のような成果を得ることができた。

- (1) 「ミュージックカルテ」を活用することにより、指導と評価の一体化を図り児童一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを評価する個人内評価を工夫することができた。
- (2) 「ミュージックカルテ」において、学習前や学習中、学習後の指導と評価を分析することにより、児童のつまずきの課題が何かを、適切に判断し、指導の手だてを工夫することができた。
- (3) 「ミュージックカルテ」を活用することにより、児童の見方や考え方が多様であることを理解することができた。また、個に応じた指導の必要性を実感し、観察児童にとどまることなく、他の児童にも「ミュージックカルテ」を活用した。
- (4) 「学級別題材別評価シート」を活用することにより、観点別学習状況の評価を基本とした目標に準拠した評価を発展させ、指導と評価の一体化を図ることができた。
- (5) 「学級別題材別評価シート」を活用することにより、題材ごと、時間ごとにおける教材研究や児童理解を行い、見通しをもって指導と評価を工夫することができた。
- (6) 「学級別題材別評価シート」を活用することにより、児童の現在の学習の状況を把握することができたため、個に応じた指導と評価の改善を常に考え、次時の授業をさらによくしたいという教師の意欲が高まった。
- (7) 「音楽的なアプローチ」を通して、音楽的な技能にとどまることなく、音楽的な感受を深め、表現の工夫や鑑賞の能力を育成する指導の改善により、児童が音楽活動の内容を理解し、音楽に主体的に取り組むことができた。

2 今後の課題

個に応じた指導と評価を実施する上で、児童の学習活動の様子を教師が十分に理解できるよう、各学校において積極的に共通理解を図ることが重要である。また、「ミュージックカルテ」は、一人一人の記録に時間がかかったことから、評価の場面や記録について、時間的な配慮を工夫していくことが課題である。

今後、本研究が、各区市町村の小学校において実践され、中学校、高等学校との連携を図りながら、音楽教育のさらなる充実を目指していく。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 東京都目黒区目黒1-1-14

電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社